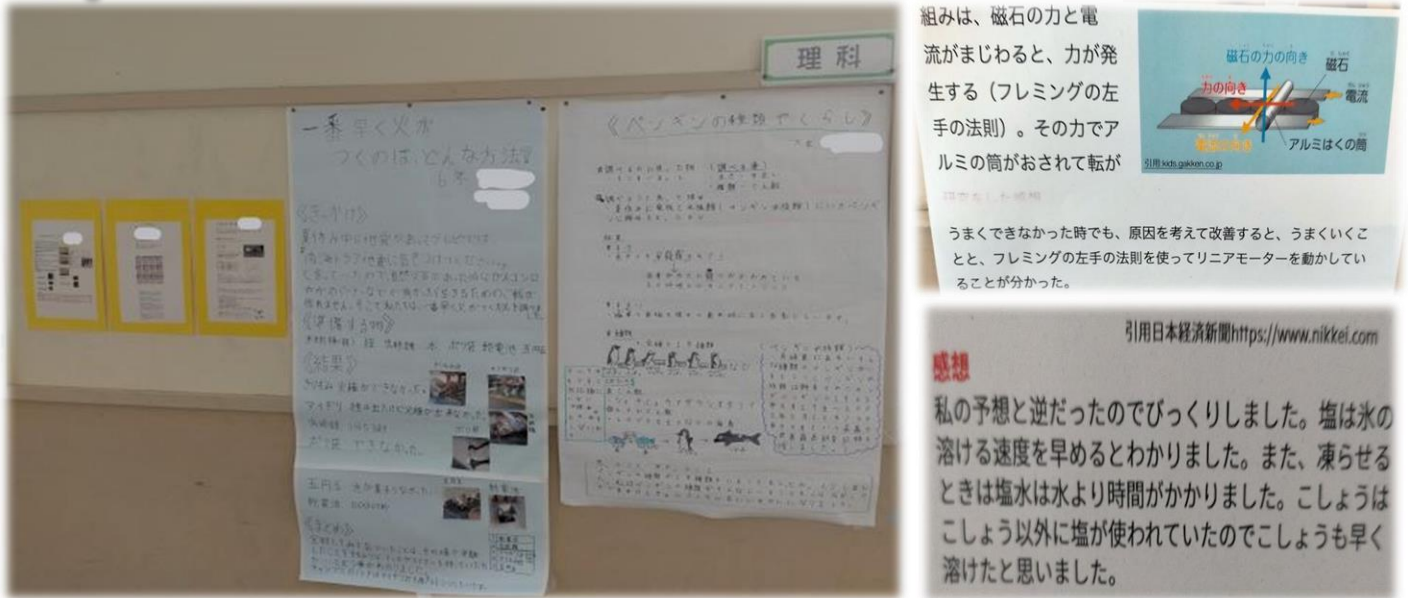


# のびのび 田底っ子

第22号

文責：校長 益永 一幸

## 夏休み自由研究に見る「科学の目と心」



夏休み期間中に、理科の自由研究をがんばった18人（3年生から3人、4年生から7人、5年生から2人、6年生から6人）の作品が2階の廊下に掲示してあります。

「せみ」「ペンギン」「水生生物」「微生物」などの観察や調べたことをまとめたものや、「雲のでき方」「リニアモーターカーの仕組み」「火のつき方」「ぶどうの甘さ」「建築」「空気の成分」などの課題を実験したり調べたりしてまとめたものがありました。どの自由研究もそれぞれの工夫点が見えたので、それをいくつか紹介します。

### 【科学の目】

- 「はじめ・調べたいと思ったわけ」→「予想・仮説」→「実験したこと・調べたこと」→「まとめ・感想」という流れでまとめられていた・・・理科の授業もほぼ同じ流れで学びます。それが自由研究に生かされていました。
- 「写真」「図」「絵」などで、調べたことを正確に記録してあった・・・この記録が証拠になり、次の実験の大切な材料になります。記憶より記録です。
- 「スイッチを入れても動かなかったので、磁石を強くしたら動くようになった」・・・失敗から学び、他の方法で試し成功していました。エジソンの様々な発見は、数多くの失敗の積み重ねから生まれたと言われています。

### 【科学の心】

- 「実験する前はわくわくしていたけど、げんじつは全て同じでがっかりしました。」・・・違うと思って実験したけど同じだった結果でがっかりしたという感想でした。科学は「誠実さ」「嘘をつかない」ことが大切です。思うような結果にならなかった場合は、実験の方法や考え方を見直すチャンスです。

夏休みがんばった子どもたちの「作品募集」などは提出しています。入賞するといいですね。